

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第35回

## 栃木県立宇都宮病院



洋風の宇都宮病院第1号病棟全景

一袋の絵葉書が残されている。表には「増改築記念繪はがき 栃木縣立宇都宮病院」の文字。裏側には診療科目に加えて病床数や入院料などが記され、所在地は旭町二丁目とあった。その場所は、現東武宇都宮駅の東側、総合福祉センター一帯。明治時代に作られた鳥瞰図「宇都宮市真景図」には、江野町の表示下に、今は無きその本館や病棟群が詳細に描かれ往時の様子がうかがえる。また、前述した入院料の記述も興味深い。「特等二床副室一、四、五〇〇」「三等二一四床合室一、〇〇〇」と並んで、伝染病室入院料の文言が目を引く。一等二床一室で一人三〇銭だった。増改築が行われた一九〇三明治三十六年



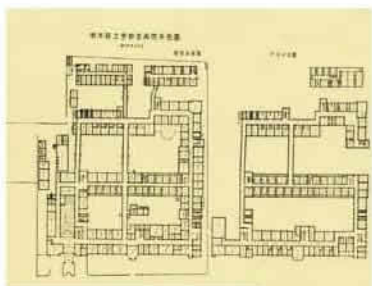
絵葉書に入った袋

ごろと思われる。洋風二階建ての絵葉書がそれである。

栃木県で最初に開院した病院は、一八七二(明治五)年五月七日設立の共義病院であった。この病院は宇都宮県の財政難から、有志の寄付金によって二里山(現栃木県庁付近)に仮設。初代院長として旧宇和島藩医で二等軍医の志賀天民が招かれ診療にあたった。しかし、記録によれば医師は志賀ひとりで、「然ルニ数十人ノ患者二員ニテ為引受候義実ニ手薄之至」という有様だったという。そのため同院は医員を増員し、最終的には志賀を含めて四人体制で診療にあたることになった。『宇都宮医師会史』には、医員として中川武則、奥平泰礼、大越寿亭の名前が見える。同院は、翌七三(明治六)年四月、二里山から松ヶ峰高屋敷の旧宇都宮県官舎に移転。同年六月宇都宮県の廃止栃木県編入により、栃木県立宇都宮病院と改称され

た。県庁移転により不用となった官舎を転用したものだ。

しかし、一八七四(明治七)年一月、栃木町に栃木病院が設立されると宇都宮分院と改称。七五(明治八)年五月には、江野町の廃止された基業学校の校舎に移った。しばらくは分院の地位に甘んじたが、八七(明治十)年再び宇都宮病院と改称し、一八八四(明治十七)年県庁が宇都宮に移転されると本院に昇格、名実ともに県内病院の雄へ成長を遂げた。



増改築された宇都宮病院平面図

また、発展に伴い看護婦養成所や産婆養成所を併設するなど、医学教育につとめ栃木県の医学界を牽引した。

一九四四(昭和十九)年、失火により焼失。七十有余年の歴史を誇った栃木県立宇都宮病院であったが、その後再建されることはなかった。